

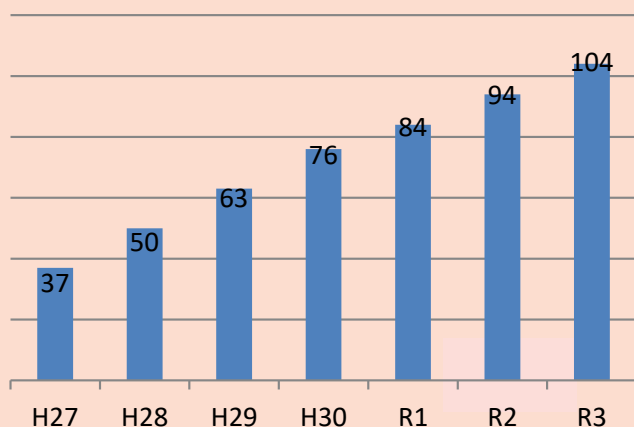
- 地域資源を活用した「儲かる農業」の展開や新産業を創出する「農業・農村の6次産業化」の事例が増え、農業者の関心が高まっている。
- 関心がある農業者、組織の6次産業化の計画づくり・実現を地域普及センターと中央普及センター（革新支援センター）が連携して支援。
- 事業計画の樹立・商品開発から事業拡大や販路拡大のためのマッチング機会の創出等成長段階に応じた支援、六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定等を関係機関と連携しながら支援したことで、6次産業化に新たに取り組む農家が増えてきている。

具体的な成果

1 「自らの6次産業化計画」の策定

6次産業化に取り組む経営体が六次産業化法に基づく総合化事業計画やファンド、補助金活用など事業計画を策定。

令和3年度実績 104経営体

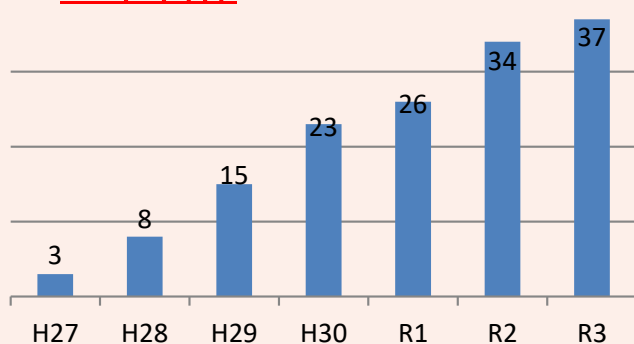


2 「自らの6次産業化計画」による経営の実践およびグレードアップを実現

事業計画に基づき6次産業化、経営改善に取り組み、自ら設定した販売目標を達成。

令和3年度実績

37経営体



普及指導員の活動

- マーケティングや食品衛生管理、労務管理など様々なテーマで研修会、ワークショップを企画し、事業計画の策定から実践に向けて6次産業化に取り組む経営体のステップアップを支援。



- それぞれの経営体が策定した事業計画の実現に向けて課題を整理。
- 商品開発や販路開拓など個々の課題に応じて専門家等と連携し、課題解決に向けて個別支援。
- 目標達成した経営体を6次産業化モデル経営体として地域への波及を図る。

普及指導員だからできたこと

- 農産物生産、加工流通、経営管理等、各分野担当者のチーム体制で対象者の経営改善をトータルに支援した。
- 6次産業化サポートセンター、プランナー、県庁フードイノベーション課、県工業研究所、県産業支援センター、商工会等、多様なネットワークを駆使し、対象者に必要な専門家等をコーディネートし、計画実現を進めた。

農業・農村の6次産業化の推進

活動期間：平成23年度～（継続中）

1. 取組の背景

三重県では、「三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画」を策定し、農業及び農村の活性化に関する施策を総合的かつ計画的に推進しています。

農業および農村をめぐる情勢が変化する中、国内外の需要を積極的に取り込み、新分野の開拓など、新たな可能性への積極的なチャレンジを応援することを通じて、農家の経営改善につなげていくことが重要です。

普及事業では、従来から取り組んできた農産物利活用、女性の起業推進を基に6次産業化をすすめ、担い手の育成・経営発展を目標に取り組んでいます。

2. 活動内容（詳細）

経営やマーケティング、食品加工など様々な研修会を開催するなかで、6次産業化に関心を持つようになった経営体に対し、事業計画の作成へと促し、支援しています。

（1）6次産業化計画の作成支援

経営体自らが、将来の経営方針、6次産業化について明確な目標を持ち、その実現に向けて取り組む活動や事業の計画作成を支援します。

6次産業化に取り組む志向・意欲はあるが具体化できない、関心はあるがきっかけがないと考える農業者・経営体に対して、目標の具体化、課題の明確化、必要な取組・行動スケジュールの確認などをおこない、実現に向けた計画づくりを支援しています。

（2）6次産業化の実践支援

経営体の課題解決に向けて経営やマーケティング、食品衛生管理などをテーマにした様々な研修会を企画・提供しています。また、生産・加工・販売に至るまでの各段階において、6次産業化サポートセンターのプランナー等専門家の助言も得ながら目標達成にむけた実践活動をサポートしています。

（3）6次産業化の発展モデル、支援機関・組織等との連携づくり

普及が支援し、発展がみられた経営体の事例をまとめ、今後、新たに6次産業化にチャレンジしようとする経営体のモデル・支援者として働きかけを行います。また、6次産業化における支援策を持つ機関・組織等との連携づくりをすすめ、地域の6次産業化を一緒に支え発展を促す支援の輪を広げていきます。

実際の支援活動における工夫

調査研究活動および支援人材育成講座の企画・実施など望ましい支援者像と普及指導員の役割を明確にしています。

6次産業化サポートセンター（SC）や農業大学校との連携による研修会や講座・インターンシップを充実させ、目標達成に取り組んでいます。



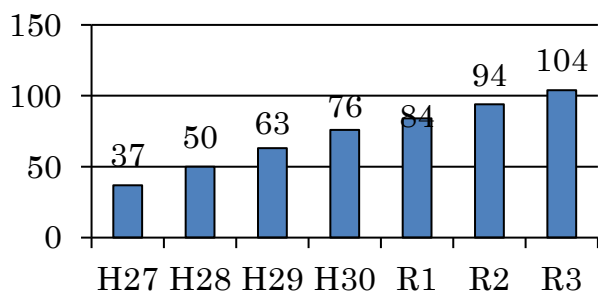
支援人材育成講座



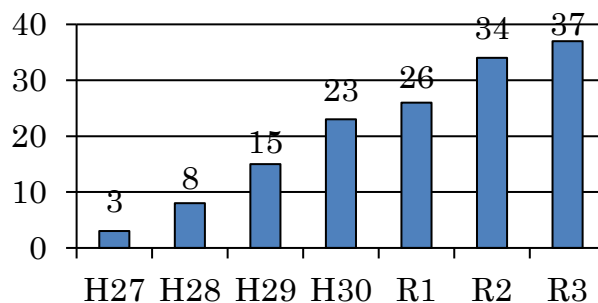
SCとの連携による講習会

3. 具体的な成果

自らの6次産業化事業計画策定する経営体数は104（令和3年度末）、自らの6次産業化事業計画に基づき販売目標を達成した経営体数は37（令和3年度末）となっています。



6次産業化事業計画策定経営体数



自らの販売目標を達成した経営体数

4. 農家等からの評価・コメント

私たちだけでは6次産業化の取組をできなかったが、県にだいぶ後押ししてもらった。知識のない部分をプランナー、普及センター等みんなの力を貸してもらっているおかげと感じている。（伊賀市 百姓工房代表）

農業者の能力に合わせ、生産、6次産業化など普及指導員の伴走型支援は非常に評価でき、成果も上がっている。（外部評価委員コメントから）

5. 普及指導員のコメント

6次産業化は経営改善のツールであり、農業者や地域の発展段階に応じた支援が必要です。経営や地域への波及効果を考え、持続可能な6次産業化を目指して支援しています。（中央農業改良普及センター 革新支援専門員）

6. 現状・今後の展開等

農業者等の経営発展に向けて、各担当普及指導員および専門家、関係機関とチームになって生産から加工販売、経営状況など全体をコーディネートしていけるよう取り組みます。